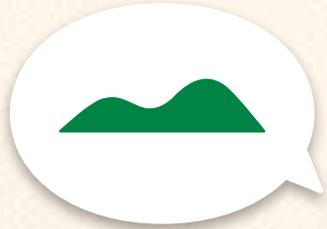


\\ 特集 /



パートナーズ・ボイス・プロジェクト 経過報告

「パートナーズ・ボイス・プロジェクト」は、協会の活動方針や活動内容を決定するプロセスに、会員やグリーンセイバーの皆さんに関与していただくための取り組みです。「パートナーズ・ボイス」という名称や具体的な内容のわかりにくさ、告知が不十分だったこともなどもあり、第1回意見交換会は少人数での開催となりましたが、新たな活動につながりそうな、有意義なディスカッションができたと考えています。

この取り組みにより多くの方に参加していただくために、あらためてこれまでの経緯と今後の展開についてご報告させていただきます。

事務局の思い

樹木・環境ネットワーク協会の使命は、自然と共生する持続可能な社会をつくりたいという志をもった人々に、活動の場と機会を提供することです。活動の主役は会員やグリーンセイバー、企業や行政、団体等、志を同じくする多様な人々で、事務局はその思いをつなぎ、活動を支えるために存在しています。

しかし、毎年6月に実施している定例総会では、事務局が作成した活動計画を、会員の皆さんに承認していただくという形をとってきました。これでは、皆さんの意思を反映した活動計画とはいえないのではないかと。この疑問が、すべてのはじまりでした。団体を立ち上げたときの思いに立ち返って、ひとりひとりのやりたいことを一緒に実現するNPOにしよう。そう考えた私たちは、まず、2020年6月の定例総会に意見交換の場を設けることを計画しました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、定例総会はリモート開催に。そこで、そ

れに代わる機会として、アンケートによる意見収集とオンライン意見交換会を実施するというプランを立て、皆さんの声の活動に反映するという意味で「パートナーズ・ボイス・プロジェクト」と名付けました。

HPで募集したアンケートには様々なご意見をいただきました。設問自体が漠然としていて何を聞きたいのかわからない、2019年度の決算報告をふまえて、「やりたいこと」より「どうやって稼ぐか」を考えたほうがいいのかという厳しい声もありました。

もちろん、運営上の課題には真摯に向き合っていきますが、日頃、何となく考えている自然への思いや、やってみたいと思っていることを出し合い、1つでも2つでも具体的な活動計画にのせ、みんなで一緒に実現していきたい。楽しく、やりがいのある活動は仲間を呼び、活動のすそ野を広げ、安定した協会運営にもつながるのではないかと。それが、事務局としての思いでした。コロナ禍で、オンラインにせざるを得ないという状況も、全国の仲間とつながるチャンスとしてポジティブにとらえ、第1回意見交換会を実施しました。



VOICE 第1回意見交換会の報告

2020年9月22日(火・祝)、オンライン会議システムを利用して、事務局、理事、ゲストを含めた計14名で、第1回意見交換会を実施しました。

後藤事務局長の主旨説明、参加者紹介、事前アンケート結果の共有を経て、新たな活動を立ち上げ、推進するプロセスの参考事例として、3つの事例発表をしていただきました。

1. 「組織的活動の立ち上げ
里山林塾の場合」 鶴田史郎
2. 「森のようちえん 虹の森
～あそぶ・つくる・たべる～」 清水冬音
3. 「GS企画について」 高橋まり子

これらをふまえて質疑応答および意見交換をおこない、その中から、いくつかの活動プランが見えてきました。



「福島での活動を立ち上げたい」

- ・帰宅困難区域の放置された山林を整備して、リクレーションなどができないかと考えているが、どのように始めたらいいかわからない。他の事例を聞いてみたい。
- ・町田の場合は、地元の小学校の校長先生だった斉藤先生が、地主さんのとりまとめをしてくれた。地域の重鎮のような方とコンタクトを取るの重要かもしれない。
- ・企業の森づくりの場合、行政に問い合わせると、整備活動ができる森を紹介してくれる場合がある。
- ・福島で活動していた人、福島在住の会員、GSなどを紹介できるかもしれない。

「育苗企画の全国展開」

- ・育苗企画をオンラインでつないで、全国に広げて、個人個人で各地域在来の野草を育てるという企画をできないかと考えている。
- ・災害で森林が荒れてしまったところなどもあるので、各地の里山で育苗し、育苗の方法や生育状況、トラブル、解決方法など



を共有するのはいいかもしれない。

- ・発芽率、活着率を高めるなど、園芸家としてのスキルアップを目的にすると、地域ごとに条件が異なるので難しい。育てる楽しみを知って、情報を共有するというスタンスがいいのでは。
- ・記録をとって共有することは重要。それを読むことで、参加できなくても、仲間意識が高まる効果がある。
- ・町田でもニリンソウをどうやったら増やせるかなど、トライアルをしてみてもいいのでは。

「森のようちえんや学校との連携」

- ・森のようちえん活動にフィールドを活用してもらうことや、親子イベントの実績を活かしたプログラムを提供することができるのではないか。
- ・昨年から進めている「学校タスク」と関連して、学校と連携したフィールドの活用も強化していきたい。
- ・GS企画で提案が出た「グリーンセイバークッズ」も具体化したい。子どもワクワクプロジェクトなどの実績を生かした、単発ではない野外活動のプログラムで、将来につながるリピーターの育成を考えたい。

VOICE

今後の展開

- 子どもが自然の中で自由に遊べる場所のニーズは高い。子どもたちが自主的に遊びを考え、活動する場としてフィールドを定期的に活用してもらうことを模索したい。



「生活を豊かにするため の里山の利用」

- 整備活動の目的のひとつとして、収穫の喜び、食べる喜びへのニーズがあると感じている。ひとつのテーマとして、食にフォーカスした森づくりもあるのでは？
- 本来里山は生活のために使ってきた場所。育苗や食もそうだが、生活を豊かにするという観点で、いろいろな活用のしかたを提案してもらおうというと思う。

「里山のめぐみ TA MA TE BA KO」の開設」

- 里山で採取、収穫したものを販売するオンラインショップの準備を進めている。木の枝、ツル、木の実、葉などのクラフト素材、育てた苗などに加え、里山ゲームなど協会で販売しているものも取り扱う。この取り組みに興味のある人は参加してほしい。

第1回意見交換会の内容をふまえてミーティングをおこない、上記5つのプランの可能性を探るとともに、より多くの会員、GSに参加していただき、新たなアイデアを出してもらえるよう働きかけを続ける、という方針を決定しました。

各プランをタスクとして進めるとともに、引き続きホームページ等で参加者やアイデアを募集し、2021年1月16日（土）の第2回意見交換会では、さらに多くの参加者とともに意見交換を行いたいと考えています。

5つのプランについて、一緒にやってみたい、活動を具体化するための情報やアイデアを持っているという方。そして、新たな活動プランを提案したい、こんな活動をしてみたいという方は、今からでも大歓迎です。ぜひ「パートナーズ・ボイス・プロジェクト」に参加してください。

ホームページ



<https://www.shu.or.jp/partnersvoice>